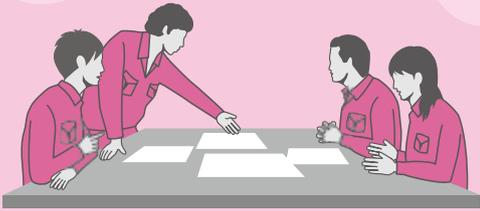


小集団 活動で

職場活性化



住友重機械マリンエンジニアリング(株)
製造本部 主管(安全担当)

児玉 猛

第4回

危険予知ミーティング、一人KY
のレベルアップを目指して!

毎日のKYミーティングを ビデオ撮影

本連載第1〜3回の中では、危険予知に取り組む小集団活動で「一人KYの実行」と、その危険予知を確実にする「指差し呼称の大切さ」を述べてきました。わが職場でも、毎日の作業の中で、一人になっても、危険を予知する行動が、特に意識をしなくても自然に実行できるそんな小集団でありたいと、いろいろな知恵を絞って、危険予知(KY)ミーティング、一人KY、指差し呼称のレベルアップに取り組んでいます。その一つに、昨年から始めた「危険予知ミーティングビデオコンクール」があ

「声かけパトロール」を 展開

わが社の安全衛生管理の骨格になってきます。過去には、これらのレベルアップのために他部門の優秀なKYミーティングを見聞したり、統一テーマを与えてKYミーティングのコンクールを実施したりしてきましたが、昨年からは形を変えて、毎日のKYミーティングをビデオ撮影して(写真1)、その画像を審査員が評価するビデオコンクールに変更しました。ほんの小さな活動ですが、部門から選ばれたグループがそれぞれに練習を重ねて、危険予知のレベルを向上させてくれることを期待しています。

わが社の安全衛生管理の骨格になって

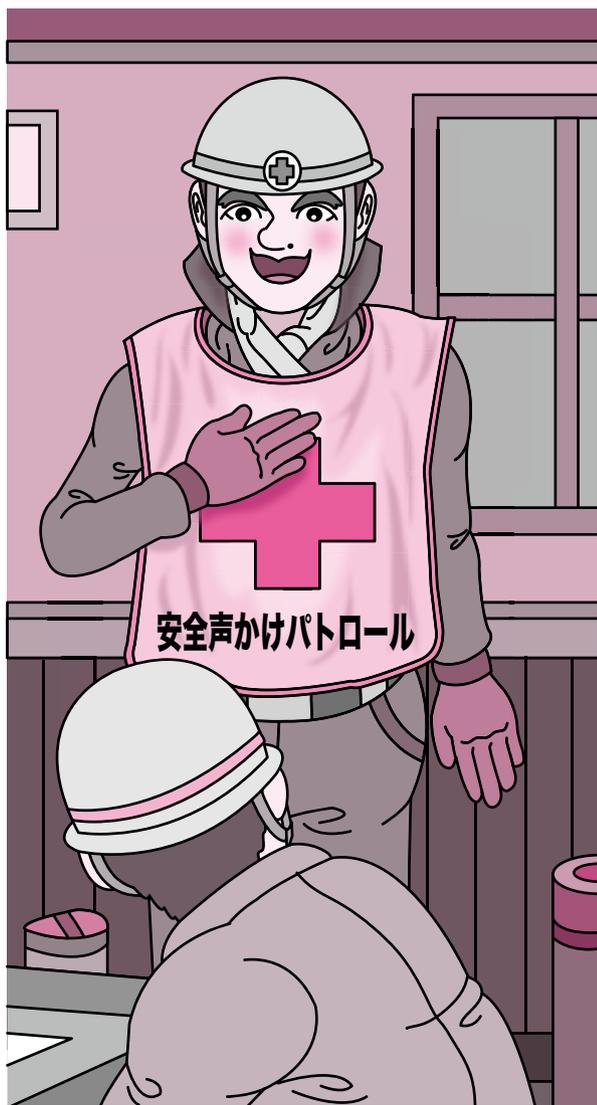


写真1 KYミーティング撮影中の様子

いる活動が、デュポン社から教えを受けた「STOP (Safety Training Observation Program) : 安全トレーニング観察プログラム」です。当社流に表現すると「声かけパトロール」という活動を展開しています。まずは朝の「ご安全に!」のあいさつから始まり、現場で働く作業者をじっくりと(安全だけ、不安全行動だけ)看る。一人KYができていなければ声を掛ける。指差し呼称が不十分ならば声を掛ける。その中で、今の行動に何が危険なのか考

小集団活動で

職場活性化



- ・ 安全だけを見る
- ・ 不安全行動を見る
- ・ 作業者と話す
 - ☆ 褒める
 - ☆ 考えさせる
 - ☆ 約束する
 - ☆ 感謝を述べる

図 声かけパトロールの内容

えさせる。これからはどうしなければいけないのか約束させる(図)。こんな活動を通じて、一人KY+指差し呼称を定

着させるための行動を展開しています。しかし、この活動にも問題があります。誰が作業者に声を掛けるのでしょうか。まずは管理・監督者が声掛け役の先頭に立つてもらわなければなりません。でも、それだけでは不十分です。管理・監督者ばかりでなく、作業を指揮する立場の人にも進んで声掛けをやってもらわなければなりません。造船業では、協力会社の作業者が大半を占めます。このような立場の人を含めて、声掛けのプロになってもらわないと、この活動のゴールは見えてはきません(写真2)。



こだま たけし

1971年 住友重機械工業(株)入社。新造船関係などの業務を経て、1997年より横須賀製造所、千葉製造所などで安全衛生業務に従事。2005年より住友重機械工業(株)本社 安全衛生担当部長を歴任後、2014年7月より現職。

わが社では「声掛けのプロの養成」も、小集団活動の一環として展開しています。次号では、そんな観点からの「相互注意」について話をします。



写真2 「声かけパトロール」へ、いざ